加藤智大さんの死刑執行に抗議します

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会「そばの会」
東京都荒川区南千住1-59-6-302
http://sobanokai.my.coocan.jp/

昨年一二月の３名の死刑執行に続き、**七月二六日、秋葉原殺傷事件の加藤智大さんの死刑が執行されました。**古川法相（当時）は「死刑執行は慎重な上にも慎重に検討して」と言っていますが、具体的な説明は一切ありませんでした。加藤さんは再審請求中でした。

昨年一二月の３人の中にも再審請求中の人がいましたが、再審の道を閉ざして執行する理由。またなぜ今、彼が選ばれたのか？執行の選別の基準は公表されていません。日本では執行の事前公表もなく、刑場も執行のない時ですら非公開で死刑の記録へのアクセスは許可されていません。このように闇のうちに執行され、家族もニュースで執行を知るしか方法がありません。

本人への通知は当日の朝、執行の約２時間前です。死刑が裁判で確定された死刑囚は一般の刑務所ではなく、拘置所で面会や通信、他の囚人たちとの交流も制限され孤独のうちに今日執行か？明日かとおびえながら何年も何十年も過ごします。執行の前にまず社会的に葬られるわけです。アメリカでは死刑確定者の面会や通信、他の囚人たちとの交流の制限はありません。

また日本の絞首刑は明治以来変わっていません。民主主義を名のりながら絞首刑を行っているのは日本くらいのものでしょう。（ほとんどの国が死刑執行をすでにやめていますが）世界から残虐だと批判されながら無視して続けているのです。

憲法三六条に「残虐な刑罰は絶対にこれを禁ずる」とあります。絞首刑は残虐な刑罰ではないのでしょうか？

国が死刑について情報を公開せず、秘密裡のうちに執行を行うのは国民の批判をかわし論議を呼び起こさないためではないかと疑いたくなります。

国が行う殺人が死刑です。もっと国民に広く周知して論議を尽くしてこそ慎重といえるのではないのでしょうか？

法務大臣や関係者のみが納得して、国民にただ信じろでは戦前と変わりません。

日本の死刑のあり方が世界から批判されている今、もっと論議が必要と考えます。